

しもしんでん
下新田遺跡

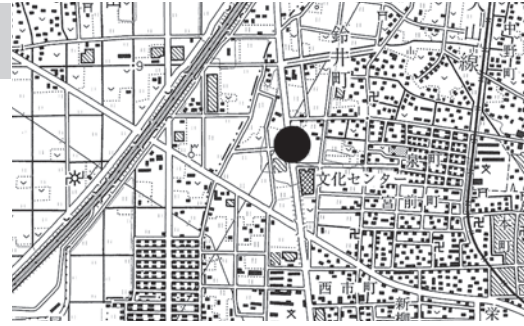
所在地 岩倉市鈴井町
(北緯35度17分17秒 東経136度51分46秒)

調査理由 緊急地方道路整備事業(主)名古屋江南線

調査期間 平成21年10月～平成22年2月

調査面積 2,100㎡

担当者 樋上 昇・蔭山誠一・榊原清人



調査地点(1/2.5万「一宮・小牧」)

調査の経過 発掘調査は、県道名古屋江南線建設工事に伴う事前調査として、愛知県建設部道路建設課から愛知県教育委員会を通じた委託事業である。県道名古屋江南線が県道浅野羽根岩倉線と立体交差する地点から北に約300mの範囲を調査対象地とした。

立地と環境 遺跡は、名鉄犬山線岩倉駅の北西約1 kmに位置し、現五条川右岸の犬山扇状地から沖積平野に移行する地点に立地しており、現地標高は約10～11mを測る。県道名古屋江南線を挟んで東側にA・B・C区、西側にD・E区を設定し、さらA区を北側からAa～Ac区、D区をDa～Dc区、E区をEa～Ed区とし、合計12の調査区を設定した。

調査の概要 遺跡では、もともと水田や畑だったところに近年の土盛り整地が行われている。盛り土は1～1.5m程度である。土盛り整地下の状況は、概して昭和の水田耕作土や旧畑耕作土が確認されており、その下に基盤層である黄褐色粘土質シルト層が見られる。その上面を遺構検出面とした。

検出された遺構は、奈良時代の竪穴住居15棟や掘立柱建物の柱列、多数の土坑、室町・戦国時代の大溝や自然河道、井戸、多数の区画溝等がある。出土遺物の主体は、奈良時代の須恵器・土師器、中世後半の山茶碗、大窯期の瀬戸・美濃産陶器などである。Ea～Ec区は、近年の整地により遺構の残存状況が悪かった。

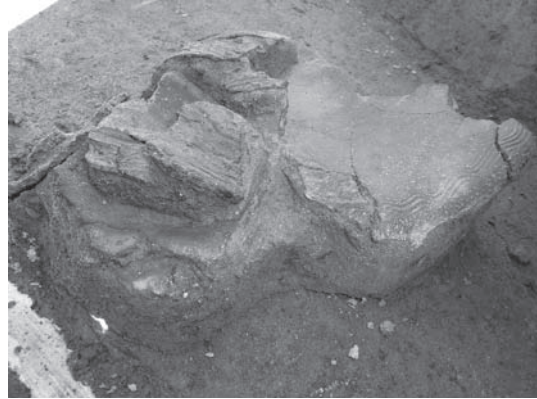
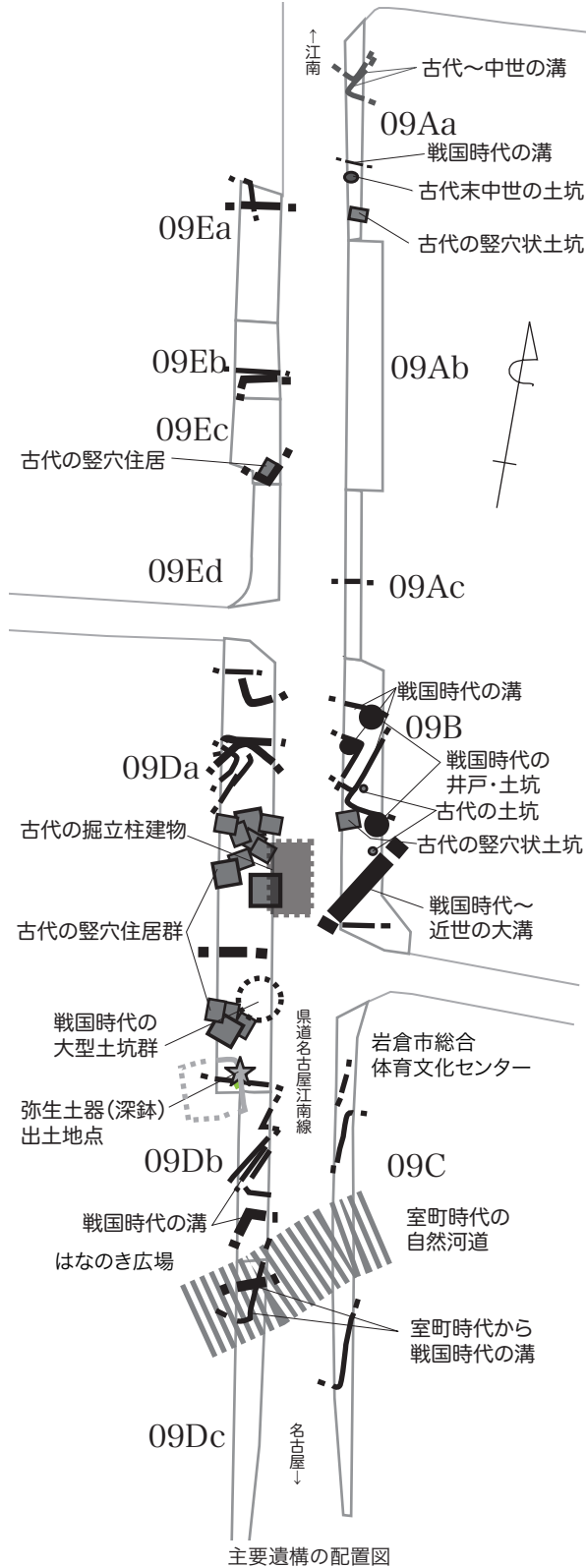
弥生時代 岩倉市総合体育文化センター北西のDa区南端～Db区北端では、西側を「コ」字状に囲む、幅約1.0mの溝が見つかった。底からは櫛状工具で施文された弥生中期後葉の深鉢が出土した。この溝は一辺10m程度の方形周溝墓の周溝である可能性が考えられる。弥生時代の遺構・遺物はDa・Db区より東に位置するB・C区では確認されていないことから、この時代の集落がDa・Db区より西、はなのき広場の方向に広がっており、Da区・Db区が集落の東端に当たると考えられる。

奈良時代 Da区では、竪穴住居13棟や大型土坑群が確認されたほか、掘立柱建物とみられる柱穴が、西壁際でおおよそ3.5mの間隔で3間分見つかった。県道名古屋江南線を挟み向かい合うB区でも古代の竪穴状土坑1基と土坑2基が確認されており、古代の遺構の中心がB区よりDa区南側にかけて存在していたと考えられる。

室町～戦国時代 全ての調査区において方形に巡る区画溝が確認された。軸線は南北方向より東にやや振れており(N-13°-E)、どの溝もほぼ同じ方向に巡っている。B区では幅4mを超える大溝のほか、戦国時代の井戸・土坑、薬研堀のように断面がV字形に掘られた溝などが見つかった。またDa区ではやや高くなった部分で大型土坑群を確認している。戦国時代と思われる井戸や大型土坑が見つかったことから、B区からDa区の辺りには15世紀後半～16世紀にかけて居住域が広がっていたと考えられる。

まとめ 今回の調査で、下新田遺跡には弥生時代中期以降から戦国時代にかけての複合遺跡であ

ることが明らかになった。弥生時代には当該遺跡の南約1.1kmの大地遺跡、弥生～戦国時代には北約0.7kmの町屋遺跡、東約0.7kmの新溝遺跡などが所在する。戦国時代には北東約0.6kmの御山寺遺跡、南東約1.8kmの岩倉城址などが所在する。当該遺跡の分析を進め、各時代の周辺各遺跡との比較検討が今後の課題である。(榊原清人)



09Da区弥生土器の出土状況



09Da区古代の柱列と竪穴住居跡(北西から)



09Db区上面遺構全景(北から)